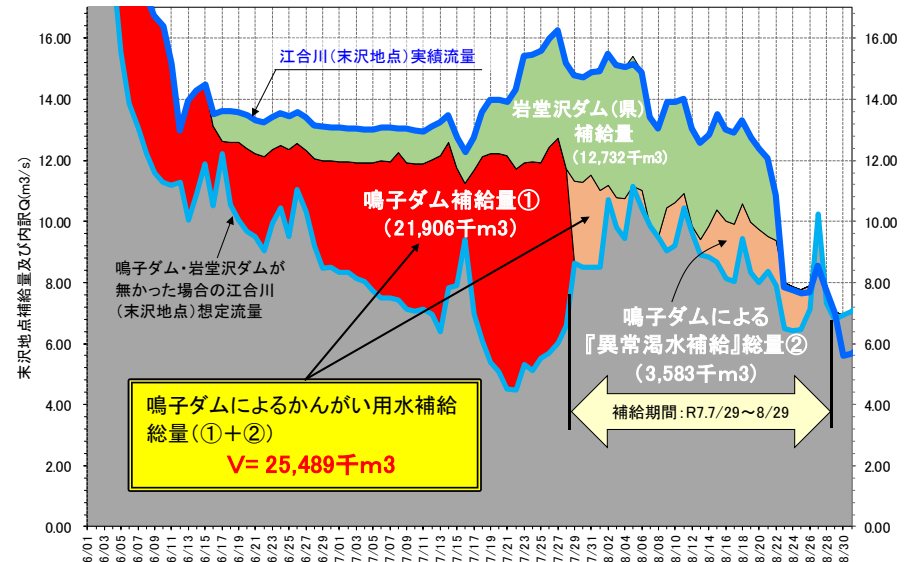
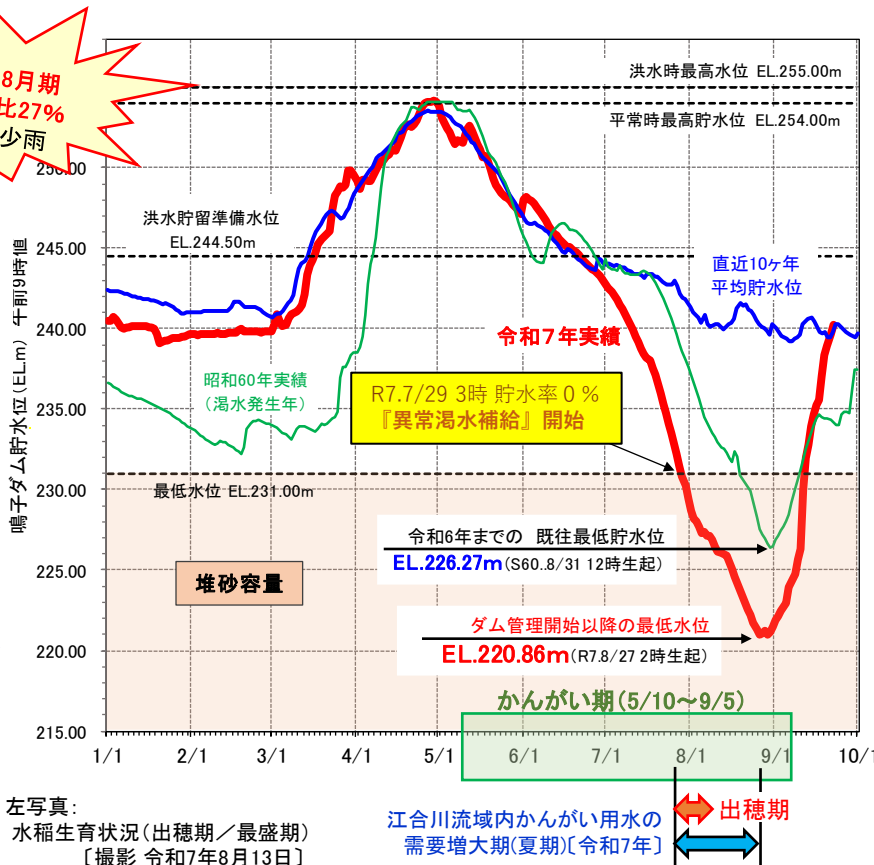
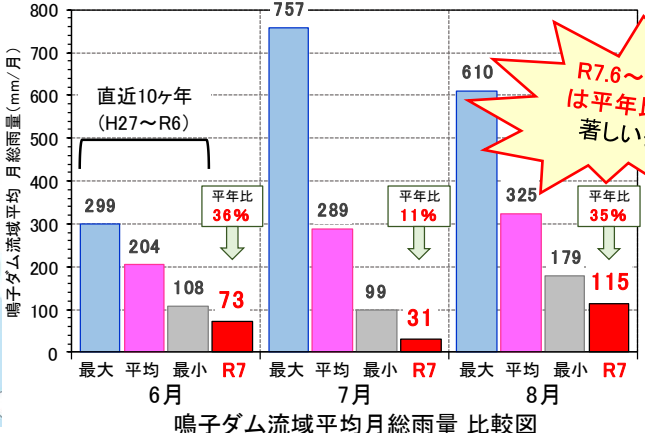


# 令和7年渇水における鳴子ダムの効果

- 鳴子ダム流域では令和7年6～8月期の総雨量が**直近30ヶ年で最少となる219mmを記録し**、近年で経験したことがないほどの少雨となった。
- まとまった降雨がなく、ダム貯水位が厳しい局面を迎える中、**令和7年7月29日3時に最低水位EL.231.00mを下回ったが、最も水を必要とする出穂期に切れ目のない補給を継続**するため関係利水者からの同意のもと、最低水位以下の貯留水を使用する緊急的な手段の『異常渇水補給』を実施した。
- **合計約25百万立方メートル(東京ドーム約21杯分)**の水を補給し、水不足に不安を抱える地域の期待に応えた。
- 『異常渇水補給』によるダム放流水にはやや濁りがあったが、臨時水質検査を毎週実施した結果、水質測定計画における測定地点では問題がない事を確認している。



**【地域の声】**  
 鳴子ダムが最低水位以下(貯水率0%)でもかんがい用水を補給し続けたことに対して、**「鳴子ダムが無ければ大変な事態になっていた。大崎耕土約1万haの水田で100億円を超える損失(想定被害額)を防いでくれた。」**(大崎土地改良区理事長 談)

注)本資料に記載された数値は9月22日現在の速報値であり、今後変更される場合があります。